

I 指導事例 小学校国語

課題1 文章の構成

平成24年度

平成25年度

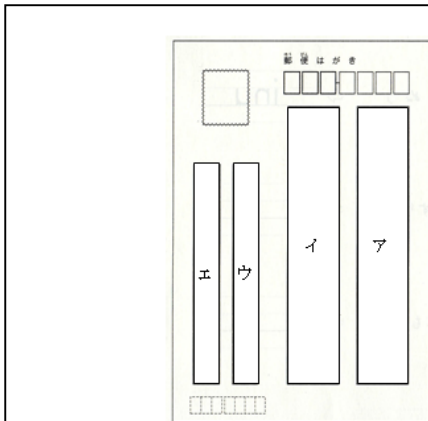
県の通過率 52.5% \Rightarrow 73.0%

問題 四 3

	主な解答例	割合 (%)
○	アに4, イに2と解答している。 →正しい位置を理解している。	73.0
×	相手の住所の位置のみ合っている。	2.3
×	相手の名前の位置のみ合っている。	7.4
×	上記以外の解答	16.1
—	無解答	1.1



ふうとうの表書きに書く名前と住所の順番を正しく理解していない。 【26.9%】

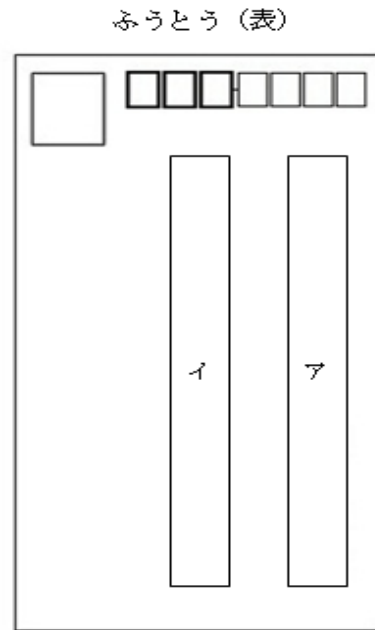


はがきの表書きに書く名前と住所の順番を正しく理解していない。 【47.5%】

- 4 相手の住所
- 3 自分の住所
- 2 相手の名前
- 1 自分の名前

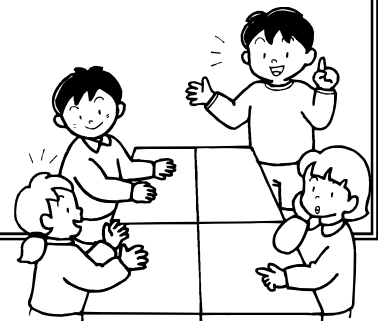
中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を書きましよう。

はがきの表書きに必要な事柄の順序を問う設問



- ④ 相手の住所
- ③ 自分の住所
- ② 相手の名前
- ① 自分の名前

木村さんは、お礼の手紙を、ふうとうに入れて送ります。次のふうとうの「ア・イ」の位置には何を書くのがふさわしいですか。下の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を書きましよう。



昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

- 定着を図るためには、国語科（書写の指導も含む）での学習のみで終わらせず、他教科・領域等と関連させ、実際に手紙を書く活動をいろいろな場面で設け、継続した指導を行うことが大切です。実際に手紙やはがきを書く活動を設けることによって、手紙やはがきを出すよさも実感させましよう。
- 日常生活の中にある手紙やはがきを書く機会（暑中見舞いや年賀状等）を捉えて指導することも効果的です。

<事例紹介>尾道市立向東小学校

- 手紙の書式や宛て名の書き方をきちんと指導する。
- 礼状、案内状などを書く活動を多く取り入れる。
- 学校全体で、計画的に取り組む。

ポイント

友達や先生、お世話になった人たちに感謝の気持ちを伝えるために年賀状を書こう！



日常生活の中にあるはがきを書く機会を捉え、目的意識、相手意識をしっかりとさせています！

【はがきの表書き】

本時までには、年賀状を書く相手を決め、相手の名前や住所、自分の住所を聞いておく。



はがきの表書きを掲示し、一つずつ確認しながら書かせる。

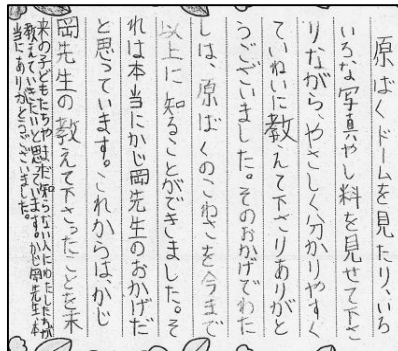


授業の中できちんと書き方を指導し、実際に自分が出す相手を意識して書くことができます。

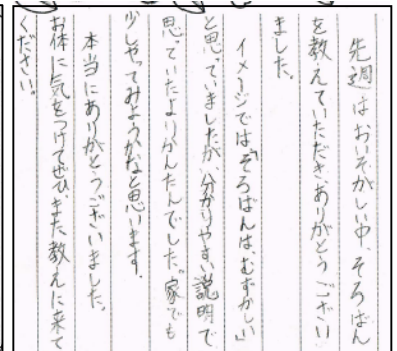
同様に、機会を捉えて封筒の書き方の指導も行う。



全学年で、他教科・領域の学習と関連させ、手紙やはがきを書く学習を多く取り入れることで、継続した指導を行っています。



【社会見学の際のお礼の手紙】

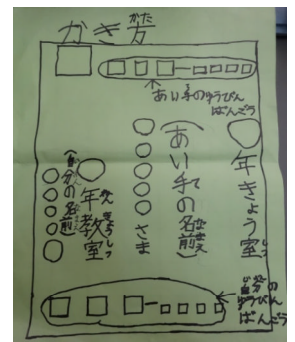


【算数の学習でのお礼の手紙】

◆ この事例以外にも、成果を上げている学校の取組として、次のような指導があります。

- 国語の学習の発展として、「読書はがきを書く」、「お礼の手紙を書く」、「体験したことを書く」等、書く機会を意識して設ける。また支援の必要な児童には、書き方の模範例を示し、それに沿って書かせた後、自分の力でもう一度書かせることを繰り返し行い、確実な定着を図る。
- 2年生が生活科の学習で「子どもゆうびんきょく」に取り組む。その学習活動に全校が協力し、学校全体で手紙のやりとりを行っている。その際に、はがきの書き方を正確に指導する。
- 手紙やはがきは、本人に送付するだけでなく、「学校便り」に掲載したり、校内掲示をしたりする。
- 手紙を受けとった方(地域の方、他学年教職員等)から感想をいただき、児童に紹介することで手紙やはがきを出すよさを実感させる。

2年生が全校に示したはがきの表書き例



問題 四 1

次の文は、木村さんが一年間お世話になった、読書ボランティアの方に出すお礼の手紙の下書きの一部です。あとの問いに答えましょう。

一年間、わたしは本を読み聞かせをしていただき、^①ありがとうございました。わたしは、読み聞かせの時間がとても楽しかったです。それは、みなさんにおもしろい本をたくさんしょうかいしてもらったからです。特に、十一月一日の「古典の日」に、落語の本を読んでくださった時のことが忘れられません。^②
わたしは、みなさんのおかげで、本のおもしろさを知ったので、これからは、わたしも本のおもしろさをまわりの人にしょうかいしていきたいと思っています。^③
一年間、本当にありがとうございました。^④

木村さんは、下書きを読み返してみると、書き直したほうがよいと思ったところが見つかりました。この下書きのどの言葉を、どのように書き直せばよいですか。次のア～エの中から、もっともふさわしいものを選び、その記号を□の中に書きましょう。

- ア ① は、大きな言い方になっているから、「ありがとう」とした方がよい。
- イ ② は、気持ちを伝える手紙だから、「楽しかったんですよ」とした方がよい。
- ウ ③ は、お礼の手紙だから、「いただいたからです」とした方がよい。
- エ ④ は、以前のことだから、「忘れられなかった」とした方がよい。

主な解答例		割合 (%)
○	ウ, う	82.0
×	ア, あ	2.1
×	イ, い	5.8
×	エ, え	3.4
×	上記以外の解答	5.8
—	無解答	0.9

誤答(ア, イ, エ)

お礼やお願いの文章は丁寧な言葉を用いるということや、その場合、「～してもらう」ではなく、「～していただく」とした方がよりふさわしいということを理解していない。

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

- 文章を書かせるだけでなく、低学年から、文章を読み返す習慣を付けさせましょう。
- 「下書き」と推敲後の文章を比べるなどの工夫をして、児童自身が間違いなどを正したり、よりよい表現に書き直したりすることによって整った文章になることのよさを実感できるようにすることが大切です。
- 交流に関する指導事項との関連を図り、書いた文章を読み合う中で、「書き手」の立場からだけでなく、「読み手」の立場からも文章を評価させることも効果的です。
- 文章の種類(感想文、報告文、観察記録文、手紙等)に応じた指導をしましょう。

①「文章の間違いを正す」ことでは、

- ・主語と述語及び修飾と被修飾の関係
- ・長音、拗音、促音、撥音、助詞(「は」「へ」「を」など)の表記の仕方
- ・敬体と常体、断定や推量、疑問などの文末表現の使い方 など

【推敲するポイント】

②「よりよい表現に書き直す」ためには、

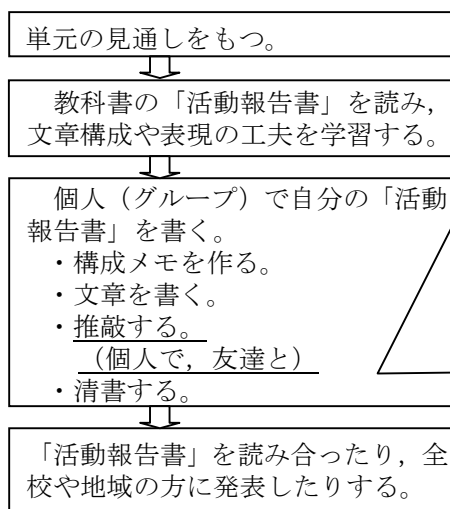
- ・相手や目的に応じているか、自分の考えを明確に記述しているかなどから表現の検討をしましょう。←単元のねらいに即した指導内容との関連が大切です。

<事例紹介> 安芸高田市立郷野小学校

ポイント

- 「活動報告書を書く」という単元を貫く言語活動を設定し、構成メモを基に表現の仕方に気を付けながら「活動報告書」を書いている。
- 書き終わったら、付箋を使って推敲表に即して各自で推敲させる。
- 書いた文章をグループで読み合い、「書き手」の立場からだけでなく、「読み手」の立場からも文章を推敲させる。

<単元的主要な流れ>



推敲する際は付箋を使って行うようにしています。学校全体で取り組むことで、推敲する習慣が付きます。



【全学年で付箋を使って推敲に取り組む】

- 構成メモを基に、事実と活動して考えたことや感想、意見を区別して書かせる。
- まず、各自で推敲表を基に、推敲箇所を付箋に記入させる。
- グループで作品を交換し、推敲表を基に推敲箇所を付箋に記入し、友達と意見交換する。



- 自分の付箋、友達の付箋を参考にして、分かりやすい活動報告書となるよう書き直す。



◆ この事例以外にも、成果を上げている学校の取組として、次のような指導があります。

- 文章を書いた時は必ず推敲のポイントを示し、児童同士で推敲する。
- 日記指導、作文指導等の際にも、常体の文章を敬体の文章に書き換えさせ、その効果を考えさせる。
- 「～していただく。」等の丁寧な言葉遣いを授業の中で指導するとともに、学校の教育活動全体を通じて繰り返し指導し、児童の言語感覚を養う。
- 総合的な学習の時間などでお世話になった方へ手紙を書く活動を取り入れる。その際、必ず下書きをさせ、読み返させる。さらに、指導者が推敲し、下書きと比べさせることで、どこをどのように直したのかを意識させる。



小学校国語

課題3 理由を挙げた記述

平成24年度

平成25年度

県の通過率 59.3% ⇨ 65.2%

問題 四 2

次の文は、木村さんが一年間お世話になった、読書ボランティアの方に下さるお礼の手紙の下書きの一部です。あとの問いに答えましょう。

一年間、わたしたちに本の読み聞かせをしていただき、^①ありがとうございました。わたしは、読み聞かせの時間かとても楽しかったです。それは、みなさんに、おもしろい本をたくさんしょうかいしてもらったからです。特に、十一月一日の「古典の日」に、落語の本を読んでくださった時のことが忘れられません。
わたしは、みなさんのおかげで、本のおもしろさを知ったので、これからは、わたしも本のおもしろさをまわりの人にしょうかいしていきたいと思っています。
一年間、本当にありがとうございました。

□の部分を読み返した木村さんは、もっと分かりやすくするために、つなぎ言葉を使って、二つの文に分けることにしました。イの()、()につなぎ言葉を入れて、ア、イの□の中に一文ずつ書きましょう。()に入れるつなぎ言葉は、次の□の中から選んで書きましょう。

イ ()、()

ア

しかし・だから・それとも・ところで

【正答】
ア わたしは、みなさんのおかげで、本のおもしろさを知りました。
イ (だから) これからは、わたしも本のおもしろさをまわりの人にしょうかいしていきたいと思います。

【正答の条件】 次の三つの条件をすべて満たしていること。

- ① 「：知ったので、」で文を分け、一文にしていること。
- ② つなぎ言葉に(だから)を選んでいいること。
- ③ 二文とも敬体で書かれていること。

主な解答例		割合 (%)
○	三つの条件をすべて満たしている	60.6
△	下書きと語順を入れ替えているが、三つの条件を満たしており、内容がほぼ変わらない	4.6
×	二文に分けるところが違う。	2.6
×	正しいところで分けてはいるが、(だから)以外の接続語を選んでいいる。	0.8
×	敬体で書かれていない。	1.8
×	上記以外の解答	20.6
—	無解答	9.0

- ・ 二文に分けるところが違うというだけでなく、(だから)という接続語を選ぶこともできていない。
- ・ 問題の意図が読み取れず、文章の内容を変えて書いている。
- ・ 二つの内容に分けて書き直す箇所については理解しているが、「～を知ったので、」のままで、文末を終止形に書き直していない。

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

- 「書くこと」の領域の記述や推敲の指導をする際に、長い一文を接続語を使って簡単な複数の文に分けさせましょう。また、内容のまとまりを箇条書きにした複数の文を、接続語を使ってまとまりのある文章にする指導も大切です。
- 複数の内容を含んで意味が分かりにくくなっている一文を取り上げて、幾つの内容が含まれているかを考えさせたり、内容のどこで文を分けて書いたらよいか考えさせたりしましょう。
- 自分が伝えたいことによって、文を切る箇所が変わってきます。一文の中で因果関係を明確にした文構造を指導しましょう。
- 「書くこと」の領域の指導においてだけでなく、他の領域での記述や日記指導といった様々な場面を捉えて、短い文で簡潔に分かりやすく書かせる指導が大切です。

<事例紹介> 世羅町立せらにし小学校

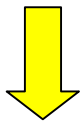
- 複数の内容を含んでいる長い文章を取り上げ、分かりやすい文に分けさせる。
- 国語の時間だけでなく、「ドリルタイム」等の時間にも取り組む。
- 国語や他教科の時間に、自分の考えを短い文に書くことや必ず理由を書くこと、接続語を適切に使ってまとめさせることを指導する。

ポイント

国語の時間に取り組む。



「～ので」、「～たり」等で複数の文をつないで長くなっている文章を先生が作成し、授業で指導をしています。



【接続語を使って二文に分ける問題】

二次の文は一文が長すぎるため、接続語を入れて二文に分けて書きましょう。

① 毎日、バケツ稲の世話をしているので、稲が大きく育ってきたので、おじいさんにぜひ見て欲しい。

※ まず、接続語の果たす役割について段階的に学習します。

- ① 適切な接続語を選んで書き入れる問題
例：「だから」、「ところが」のどちらかを（ ）に書きましょう。
㊦ 今日はとてもいい天気だ。（ ）ハイキングに出かけることにした。
- ② 接続語を自分で考えて書き入れる問題
例：二つの文の意味が通るように、（ ）に接続語を書きましよう。
㊦ かれは足が速い。（ ）運動会で一位になった。
- ③ 接続語に続く適切な文を自分で作る問題

「ドリルタイム」等の時間にも取り組む。

授業でしっかりと学習した後は、ドリルタイムでも取り組みます。



【「ドリルタイム」の様子】

各学年の課題に応じて、全校一斉に取り組んでいます。

学校全体で取り組むことで先生方も児童も自分の考えを分かりやすく簡潔に書くことを意識することにつながります。



◆ この事例以外にも、成果を上げている学校の取組として、次のような指導があります。

- 児童が書いたものは必ず教師が目を通し、「～たり、～たり…」、「～ので、～ので…」等のように、長い一文を書いている際は指導を入れ、児童に書き直させる。
- 主述のそろった短い一文を書く習慣を付けさせる。
- 第1・2学年において、一文の中の主語や述語に印を付ける指導を繰り返す。
- 書く活動だけでなく、発表など話す場面においても、一文が長くならないように気を付けたり、接続語を効果的に使ったりさせる。

